

# 病害虫発生予報 第5号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 8月の病害虫発生予報

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（穂いもち）	少ない	—	大豆	ハダニ類	並	—
	<b>紋枯病</b>	<b>やや多い</b>	—	野菜	白ねぎのさび病	少ない	—
	<b>ごま葉枯病</b>	<b>やや多い</b>	—		白ねぎの黒斑病・葉枯病	やや少ない	—
	斑点米カメムシ類				<b>白ねぎのネギアザミウマ</b>	<b>やや多い</b>	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	<b>やや多い</b>	—		白ねぎのシロイチモジヨトウ	<b>多い</b>	—
	<b>アカスジカスミカメ</b>	<b>やや多い</b>	—		アブラムシ類	並	—
	トゲシラホシカメムシ	やや少ない	—		ネキリムシ類	並	—
	ニカメイガ（第2世代）	並	—		果樹	<b>果樹のカメムシ類</b>	<b>やや多い</b>
	ツマグロヨコバイ	少ない	—	<b>リンゴ・ニホンナシのハダニ類</b>		<b>やや多い</b>	—
	ヒメトビウンカ	少ない	—	<b>リンゴの褐斑病</b>		<b>やや多い</b>	—
セジロウンカ	少ない	やや遅い	リンゴの斑点落葉病	並		—	
トビイロウンカ	少ない	遅い	ニホンナシのナシヒメシンクイ	並		—	
イネアオムシ	少ない	—	ブドウのべと病	少ない		—	
大豆	<b>葉焼病</b>	<b>やや多い</b>	—	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ		やや少ない	—
	<b>紫斑病</b>	<b>やや多い</b>	—	モモのモモハモグリガ	少ない	—	
	<b>ウコンノメイガ</b>	<b>やや多い</b>	—	花き 球根	きくの黒斑病・褐斑病	並	—
	フタスジヒメハムシ	少ない	—		アブラムシ類	並	—
	アブラムシ類	少ない	—		タバコガ類	並	—
	<b>ハスモンヨトウ</b>	<b>やや多い</b>	—		ネキリムシ類	並	—
	<b>大豆カメムシ類</b>	<b>やや多い</b>	—				

# I 水 稲

## 1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない  
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査では、葉いもちの発病株率が0%で、平年(0.0%)並に少なかった。
- ・ 8月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 防除指針 30～31 ページ参照

## 2 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い  
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月20日調査では、発病株率が1.3%で、平年(1.7%)並であったが、近年の発生が多く、8月は気温が高く降水量は平年並か多いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 27～28ページ参照

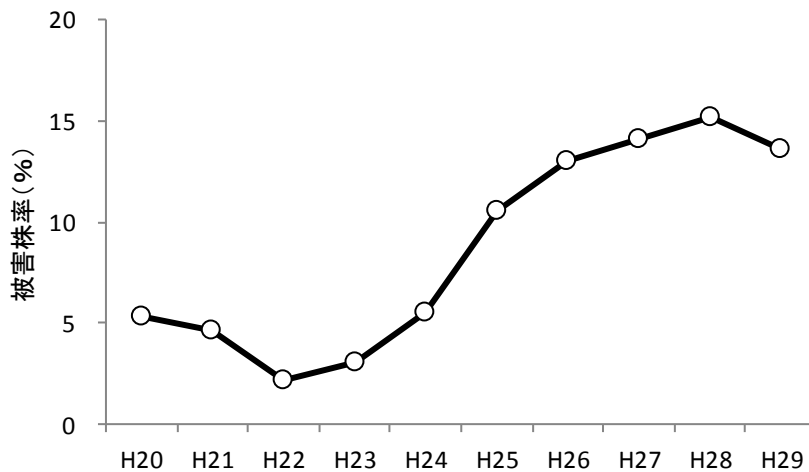


図1 紋枯病の被害株率の年次推移(9月5日調査)

## 3 ごま葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い  
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月20日調査では発病株率が0.1%で、平年(0.1%)並であったが、近年の発生が多く、8月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 適切な水管理の励行等により稲体活力の維持に努める。
- ・ 防除指針 32 ページ参照

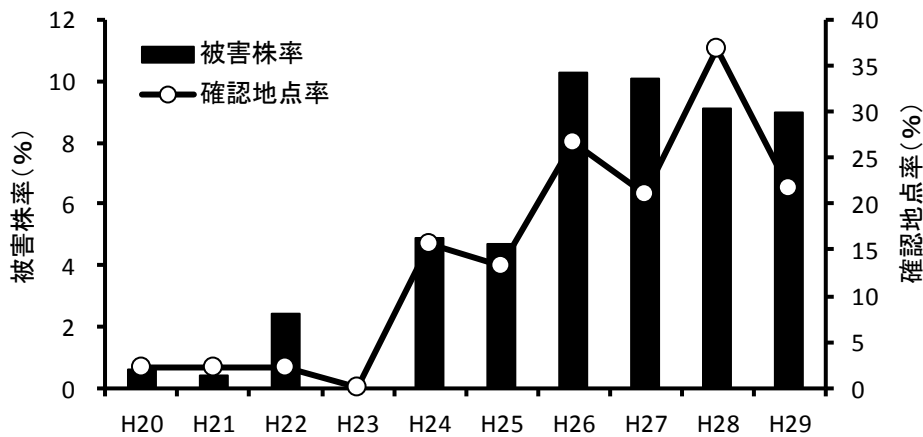


図2 ごま葉枯病の被害株率の年次推移(9月5日調査)

#### 4 斑点米カメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメ)

(1) 予報内容 発生量: やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は3.4頭で平年(3.5頭)並、確認地点率も38%で平年(48%)並であったが、8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・ 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・ てんたかく等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を確実に実施する。また、コシヒカリおよび晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・ 防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・ 近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなるので防除を徹底する。
- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・ 防除指針 40~41ページ参照

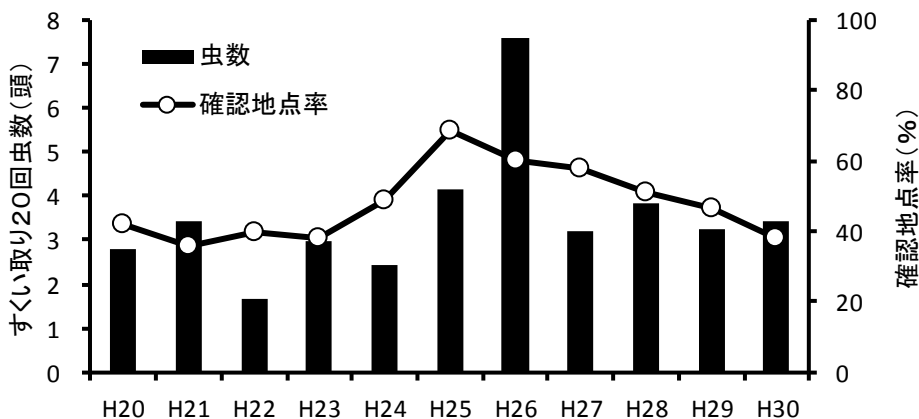


図3 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 5 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は1.3頭で、平年（1.6頭）並、確認地点率も18%で、平年（20%）並であったが、8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針 40～41ページ参照

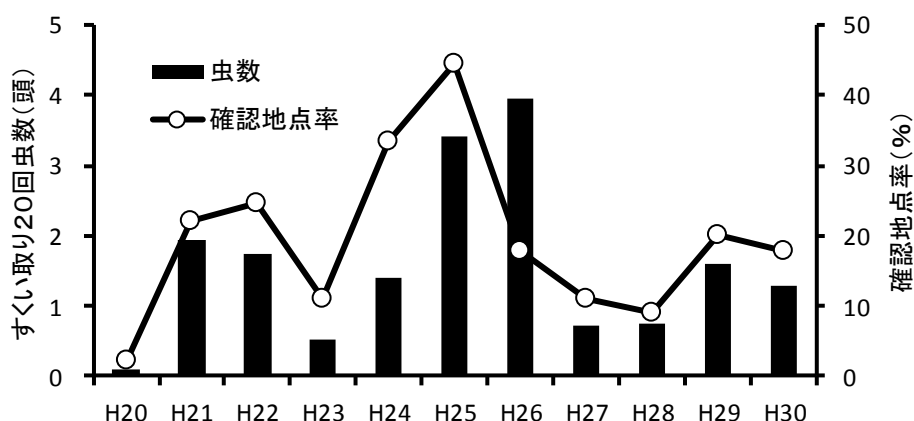


図4 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 6 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.04頭で、平年（0.24頭）より少なく、確認地点率も4%で平年（16%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針 41ページ参照

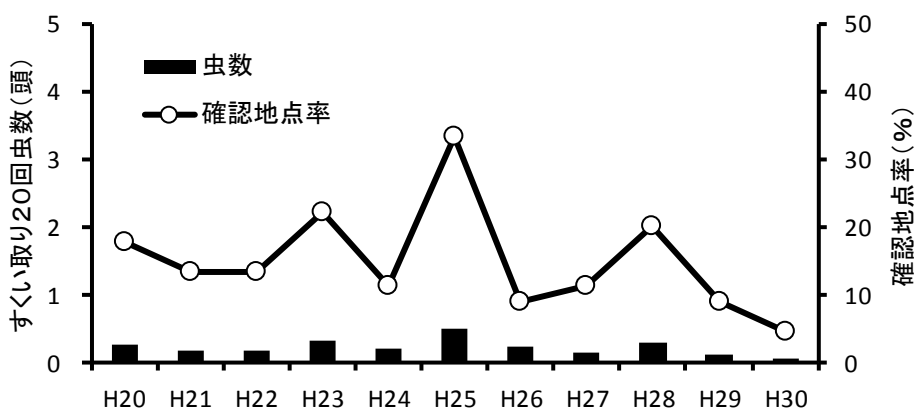


図5 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 7 ニカメイガ（第2世代）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 7月20日調査の被害株率は0.4%で、平年（0.8%）よりやや少なかったが、確認地点率は11%で、平年（8%）並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 35～36 ページ参照

## 8 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は0.0頭で、平年（1.6頭）より少なく、確認地点率も2%で、平年（15%）より少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 37ページ参照

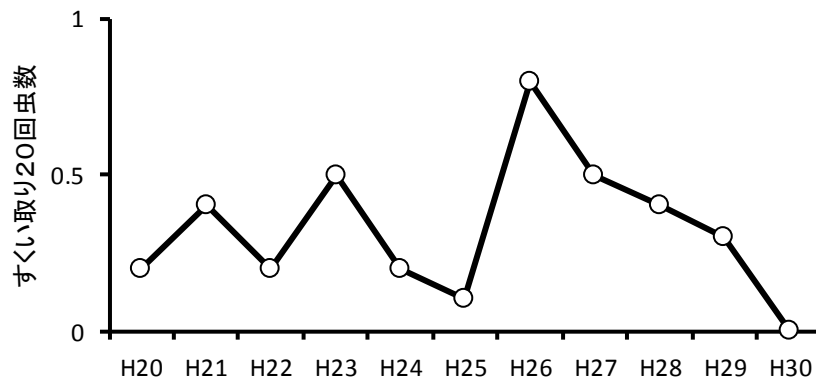


図6 ツマグロヨコバイのすくい取り虫数年次推移(7月20日調査)

## 9 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は1.0頭で、平年（3.4頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 38～39ページ参照

## 10 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：やや遅い
- (2) 予報の根拠
  - ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は本年0.0頭で、平年（1.6頭）より少なかった。
  - 【遅発要因】
    - ・ 初発日は7月3日で、平年（6月28日）よりやや遅かった。

- (3) 防除対策  
・防除指針 38～39ページ参照

## 1.1 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：遅い
- (2) 予報の根拠  
【少発・遅発要因】  
・現在、発生は確認されていない（平年の初発は7月25日）。
- (3) 防除対策  
・防除指針 38～39ページ参照

## 1.2 イネアオムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠  
【少発要因】  
・7月20日調査の本田すくい取り虫数は0頭で、平年（0.5頭）より少なかった。
- (3) 防除対策  
・防除指針 39ページ参照

# II 大豆

## 1 葉焼病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠  
【多発要因】  
・7月25日調査の発病度は0で、平年（0.2）並に低かったが、8月の降水量は平年並か多いと予想されている。
- (3) 防除対策  
・防除指針 52ページ参照

## 2 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠  
【多発要因】  
・8月の降水量は平年並か多いと予想されている。
- (3) 防除対策  
2回の基本防除（8月2～3半旬と4～5半旬）を徹底する。  
・防除指針 52ページ参照

## 3 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の被害株率は17.5%で、平年（12.1%）よりやや高かった。

(3) 防除対策

- ・ 播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
- ・ 7月6半旬に幼虫による葉巻の発生量を確認し、防除が必要であれば、8月上旬まで（若・中齢幼虫期）に遅れず実施する。
- ・ 防除指針 53 ページ参照

#### 4 フタスジヒメハムシ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月25日調査の被害株率は0%で、平年（13.3%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・ 払い落とし調査を行い、ほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
- ・ 防除指針 55 ページ参照

#### 5 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月25日調査の寄生株率は0%で、平年（0.6%）並に低かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 54 ページ参照

#### 6 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は127頭で、平年（97頭）よりやや多かった。
- ・ 8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 55 ページ参照

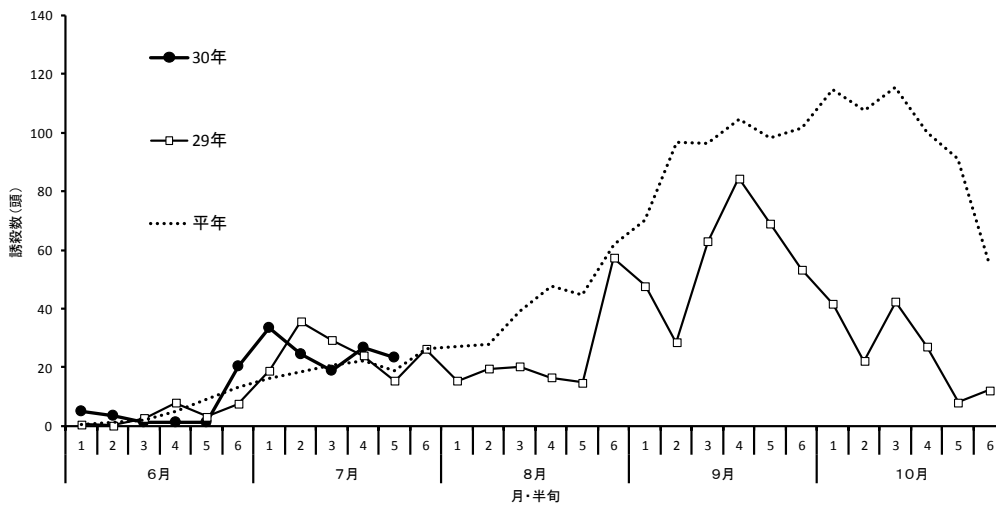


図7 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

## 7 大豆カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・前年の発生量が多く、8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・多発が懸念される場合は、開花期頃からは場周辺部を中心に払い落とし調査を行い、発生が見られたら防除する。
- ・防除指針 54 ページ参照

## 8 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月25日調査の寄生株率は1.1%で、平年(1.6%)並であった。
- ・8月の気温は高いが、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。
- ・防除指針 53 ページ参照

## Ⅲ 野菜

### 1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・7月25日調査の発病株率は10.4%で、平年(22.7%)より低かった。



(3) 防除対策

- ・防除指針 110 ページ参照

## 2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・7月25日調査の発病株率は4.8%で、平年(10.2%)よりやや低かった。

(3) 防除対策

- ・葉先枯れの防止に努める。
- ・防除指針 111 ページ参照

## 3 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月25日調査の被害株率は64.0%で、平年(45.5%)よりやや高かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 112、113 ページ参照

## 4 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数は79頭で、平年(33頭)より多かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 113 ページ参照

## 5 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・アブラムシ類有翅虫の7月1半旬～7月5半旬の黄色水盤への誘殺数は228頭で、平年(259頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 79～147ページのアブラムシ類の項参照

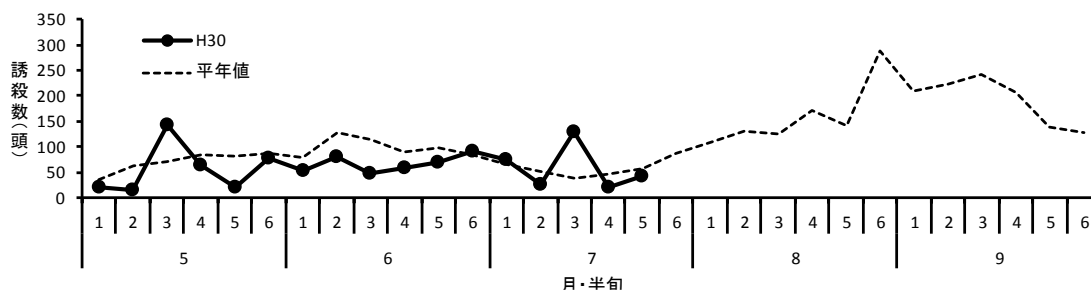


図8 アブラムシ類の黄色水盤トラップ誘殺数推移

## 6 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・タマナヤガのフェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は45頭で、平年（34頭）並であった。
- ・カブラヤガのフェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は105頭で、平年（106頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 81～145ページのネキリムシ類の項参照

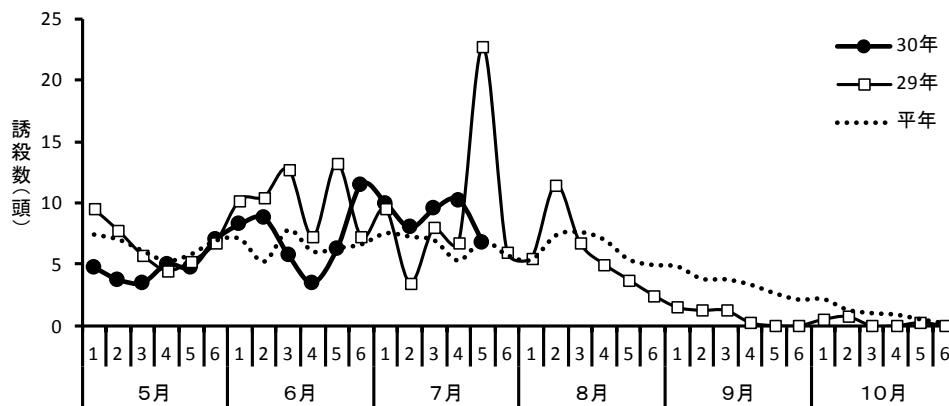


図9 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

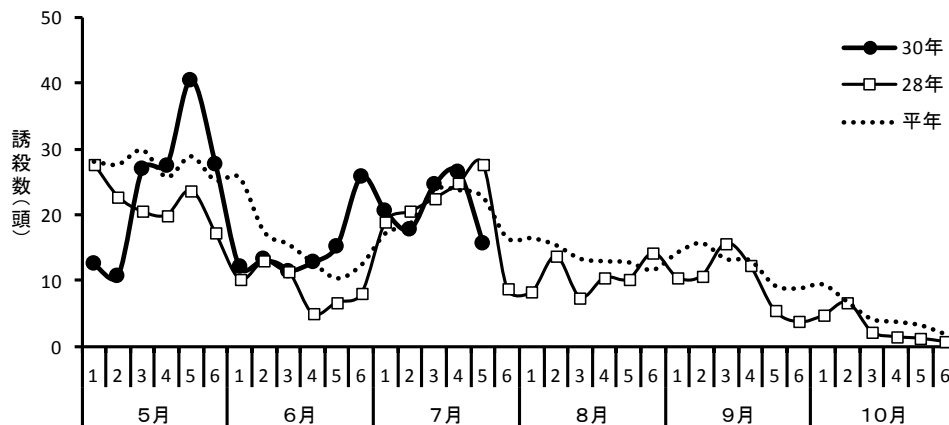


図10 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

## IV 果 樹

### 1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

#### 【多発要因】

- ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月4半旬のチャバネアオカメムシの合計誘殺数は7.3頭で平年(11.1頭)並であったが、8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・園内をよく観察し、飛来や被害が確認された場合はただちに防除を実施する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に特に注意する。
- ・防除指針リンゴ153, 157, 160ページ、ニホンナシ168, 171ページ、カキ181ページ参照

### 2 リンゴ・ニホンナシのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

#### 【多発要因】

- ・8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・草刈り後に防除を実施する。徒長枝を切除する等、薬剤到達性を向上させる。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に特に注意する。
- ・防除指針リンゴ158ページ、ニホンナシ169ページ参照

### 3 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

#### 【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針153, 155, 159, 160ページ参照

### 4 リンゴの斑点落葉病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・これまでの発生量は平年並であった。

(3) 防除対策

- ・高温多雨で発生が急増しやすいので、発生に注意して防除を実施する。
- ・防除指針153, 155, 159, 160ページ参照

### 5 ニホンナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月4半旬の合計誘殺数は4.0頭で平年(6.1頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・昨年発生が多かった園では、発生に注意し確実に防除を実施する。

- ・収穫期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に特に注意する。
- ・防除指針164, 167, 168, 171ページ参照

## 6 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
  - ・これまでの発生量は少ない。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針174, 176ページ参照

## 7 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
  - ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月4半旬の誘殺数は110.0頭で過去7年間の平均（236.2頭）よりやや少ない。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針179, 181ページ参照

## 8 モモのモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
  - ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月4半旬の誘殺数は9.5頭で平年（109.3頭）より少ない。
- (3) 防除対策
  - ・収穫終了後（8月下旬以降）の防除を実施する。
  - ・防除指針183, 184, 185, 186ページ参照

## V 花き・球根

### 1 きくの黒斑病・褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・7月25日調査の被害株率は0%で、平年（3.9%）よりやや低かったが、8月の降水量は並か多いと予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 202 ページ参照

### 2 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・アブラムシ類有翅虫の7月1半旬～7月5半旬の黄色水盤への合計誘殺数は228頭で、平年（259頭）並であった。
- (3) 防除対策

・防除指針 200～224ページのアブラムシ類の項参照

### 3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の合計誘殺数はタバコガが25頭で平年(27頭)並、オオタバコガも23頭で平年(29頭)並であった。

(3) 防除対策

・防除指針 208～228ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

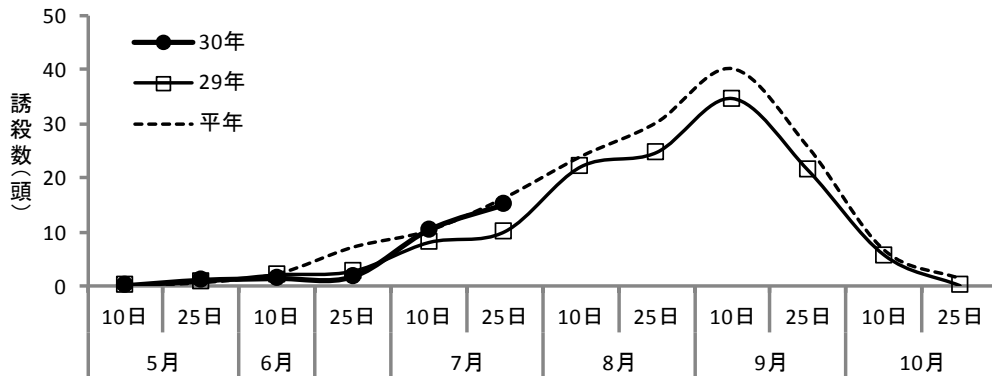


図11 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

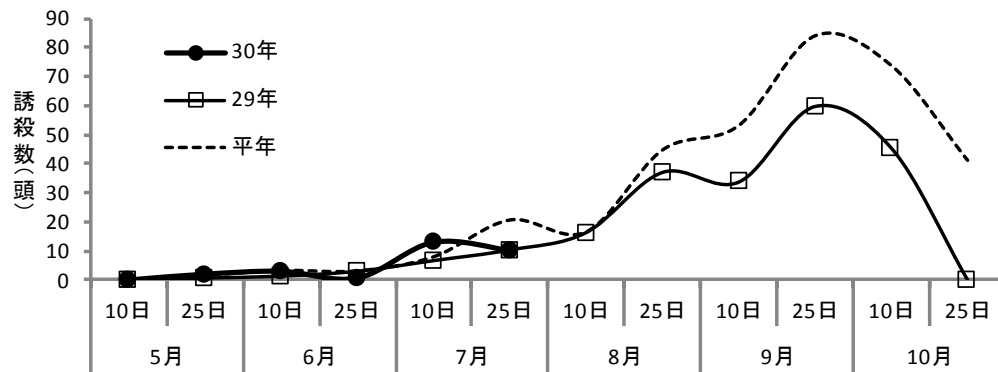


図12 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

### 4 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・タマナヤガのフェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は45頭で、平年(34頭)並であった。

・カブラヤガのフェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は105頭で、平年(106頭)並であった。

(3) 防除対策

・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。  
・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。

・防除指針 208～225 ページのネキリムシ類の項参照

**○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう**

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

**○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう**

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

# 北陸地方 1か月予報

(7月28日から8月27日までの天候見通し)

平成30年7月26日  
新潟地方气象台 発表

## <特に注意を要する事項>

期間の前半は気温の高い状態が続く見込みです。

## <予想される向こう1か月の天候>

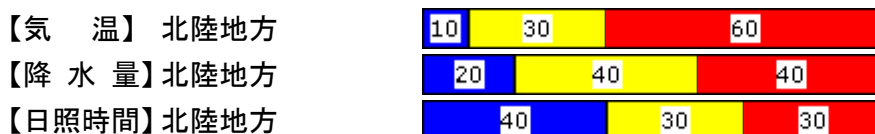
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

## <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## <気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い